

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	いたばし前野町保育園
施設所在地	東京都板橋区前野町6-3-9日版プロセスビル
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音「たくさんのお音を聞きたい」

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

日常から音に興味を持っている子ども達。都会にありつつ、近隣には自然豊かな公園もあり、日常から車やトラックなどの人工物の音や、セミや葉っぱが揺れる音などが聞こえるたびに子どもの方から発信があり「葉っぱの音と救急車の音が混ざってるー」とその不思議さに興味を持っていた。その音について探求し、音の世界に入り込んでみたい。

2. 活動スケジュール

【活動のテーマを明確にする】

子どもの現状の姿を園内で話し合い、今年の活動の目標を相談する。

5月22日

日常楽器アーティストのkajiiさんとオンラインで打ち合わせ。子どもの現状、方向性、お願いしたいことを話し合った。

【音と体を連動させる】

6月～ 保育者が中心となってオノマトペを聞きながら体を動かす。音に親しみながら体を動かす活動を園の保育の中に取り入れた。

【オリジナルの楽器に触れる】

9月10日kajiiさん訪問。身近にあるものを素材にしたオリジナル楽器（講師制作）演奏を聴き、初めて子どもたちも楽器に触れる。

【子どもたちがオリジナルの楽器を作る】

9月11日～10月22日

Kajiiさんからもらったインスピレーションを元に、当園の全ご家庭のお願いして、ありとあらゆる廃材を募った。それらを駆使して子どもたちだけのオリジナル楽器を作成。

【オリジナル楽器の披露】

10月23日kajiiさんとZOOM。自分たちが作った楽器をZOOM越しに見せ、苦労した点、本当はこんな風に作りたいかった、こんな音を出すとしたら、などの質問を投げかけkajiiさんからアイデアをもらう。

【オリジナル楽器のレベルアップ】

10月24日～12月3日もらったアイデアを実践しながら、作成していた楽器に更なる工夫を加え、より納得できるものへと変貌。

【オリジナル楽器を再び披露する】

12月4日kajiiさん訪問。実際に作ったものをkajiiさんに見てもらい、これまでの頑張りを認めてもらいながらも、更なる発展の為のアイデア、例えば子どもが作った楽器の鳴らし方の工夫で音が違うなど、といった新たな発見をもらい、子ども達自身が自分が作った楽器を見つめ直す。

【オリジナル楽器を生活発表会で披露する準備】

12月5日～1月23日 子ども達が作った楽器にとっても愛着があり、それらを発表会で披露したいと発言。生活発表会の日までに修正とチャレンジを繰り返す。

【生活発表会】

1月24日生活発表会にて楽器の披露と演奏。子ども達一人ひとりが保護者の前で、楽器の名前や作る過程で工夫した点、その音の特徴などを発表。他児がおこなうダンスに合わせて手作り楽器を使っの演奏を発表。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

保護者の方々から廃材の提供。それらをいつでも、子どもが思い立った時にすぐに使用できるようクラスの環境を、制作づくりに特化させた。

日常オリジナル楽器アーティスト Kajiiさんの講師料：全3回分（9/10, 10/23, 12/4）

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

1. 【活動のテーマを明確にする】

子ども達が音のどんなことに興味をもっているのかを探る。自分たちで好きな音を作り出したい、という姿が見えてくる。身近にあったものが日常品の廃材であることと、本物楽器含めいろんな音に触れていく中で、自然と子ども達が廃材から楽器を作ろうとし始めた。

2. 【オリジナルの楽器に触れる】

「kajii」という日常品から楽器を作成し、演奏やワークショップをしている方に講師となってもらい来園。実際に身の回りにある物で楽器の音になっている事を肌で感じる。

3. 【子どもたちがオリジナルの楽器を作る】

実際に見て触れた者、学んだことをもとに、目の前にある素材を使ってオリジナル楽器づくりに挑戦。

4. 【オリジナル楽器の披露】

kajiiさんとZOOMを通じて確認。現時点で子どもたちがつくった楽器を見てもらい、アドバイスや評価を今後の成長へとつなげる。

5. 【オリジナル楽器のレベルアップ】

楽器づくりのトライ&エラー：学んだことをもとに、自分の楽器を見つめ直す。

6. 【オリジナル楽器を再び披露する】

再び講師の来園：そこで更にヒントをもらう。

7. 【オリジナル楽器を生活発表会で披露する準備】

自分たちの作ったものにさらに付属物をつけたりして改良を行う。

8. 【生活発表会】

生活発表会にて楽器披露：本番直前まで何度も手直しをしながら、楽器が納得いくまで制作を繰り返す。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

廃材を使用し楽器を作っていく中で、「ここに穴をあけたいんだけど、どうしたらいい?」「これを切りたいんだけど、はさみじゃ切れない」などと、作りたい物のイメージはできているものの、どのような道具を使ってどのように廃材を変身させたらいいのか苦戦する姿が見られた。あえて保育者が答えを言うのではなく、「どうしたら穴が開くかな?」と一緒に考えてみたり、「色んなものを使って試してみよう」と声を掛ける事で、今まで触れたことのない道具にも沢山触れる機会が出来、自分自身で試してみようという姿勢がたくさん見られるようになってきた。成功体験と失敗体験を繰り返していく中で、例え思った通りに作成がうまくいなくても諦めることなく、次の方法を模索して思いっきり廃材を変えてみたり、使用する材料にこだわってみたりする姿も見られた。

沢山模索しながら楽器作りを行っていたが、やはり出したい音を作ることができず苦戦していた姿があった為、子ども会議を行う。「どうしたら悩みが少なくなるか」「誰に聞いたらいいのか」など子ども達が抱える悩みを可視化することで、「本当は違う形の楽器が作りたかった」「もっと高い音が出る楽器が作りたい」などと子どもたちの本音をたくさん聞くことができた。その声をもとに、KAJIIさんに再度お願いし、ZOOMで途中経過の楽器を見せ悩みを相談することにした。「緊張しちゃって何を話したらいいのか分からなくなっちゃうから、紙に書きたい」と子ども達からの声もあり、事前に相談したい内容を紙にまとめ、順番に相談すると、自分たちの想像を超えるアイデアが出てきてZOOM後すぐに楽器作りを再開したいとやる気に満ち溢れる子ども達。改めて作り直したところ、自分が想像していた音に徐々に近づいてくる楽器を見て「聞いてて。高い音が出るようになった」と嬉しそうに保育者に紹介する姿が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

取り組み前は、園にある楽器を使用し音を奏でることを楽しんでいましたが、子ども達が普段耳にする音はなかなか既存の楽器じゃ出せないと気づき、楽器遊びから少し離れる姿が見られた。子ども達の興味を再び広げる為に模索した結果、製作遊びも好きな子ども達なので自分たちで作ってみるのがいいのではないかと考えた。そこで廃材をもとに楽器制作に取り掛かるもうまく進まない。そんな中、日常の物を楽器にする講師を見つけ、新しい発見につながる。日常の物を簡単に楽器に変身させることができ、様々な音色を奏でられることに気づき、製作意欲をあげることができた。

作成段階で思ったようにならず苦戦する姿も見られたが、試行錯誤を繰り返すことで自分の思い描く音を作れた喜びから、音だけでなく製作意欲も同時に上がり子ども達に自信が出てきた。

子ども達の興味はどこに向いているのか、好きを広げるためにはどのような環境を作るべきかという視点をしっかりと持ち、環境を作ることで、子ども達自身が不可能を可能にする力が自分たちにもあるということに気付くことができた。

生活発表会では子ども達自身が作ったオリジナル楽器を披露した。ただ演奏するのではなく、制作をしていく上で大変だったこと、工夫したところなども発表することで、より子ども達のバックグラウンドに共感できるような時間となった。保護者からはそれらを通じて、どんなことにも目標をたてて実行に移すようになった、家での制作の集中力が増した、などの成長に驚きと感動の声を頂けた。

今後も子ども達がいつでも楽器製作に取り組めるような環境作りを行い、他クラスの子も達や保護者と共有していく中で、園内の良い刺激にしていきたい。